

国家資格への期待と矜持

古村 健[†]第73回国立病院総合医学会
(2019年11月9日 於 名古屋)

IRYO Vol. 75 No. 3 (247-250) 2021

要旨

国立病院機構心理療法士協議会では、2019年に階層別達成目標を作成した。本論では、この階層別達成目標をもとに心理療法士の業務と心理職の有効活用に向けた指針を示した。心理療法士の中核業務は、心理アセスメントと心理支援であるが、臨床研究・教育研修、災害時・緊急時対応、職員のメンタルヘルス対応にも寄与する力を有していることが多いことは十分に周知されていない。心理療法士は、今後は国家資格を有する公認心理師として、有機的に多職種と連携し、国立病院機構が担う医療のなかで、国民の心の健康に寄与したいと考えている。本論が、今後の多職種連携に向けて心理療法士の活用方法の可能性を広げ、柔軟に考えていただくきっかけになればありがたい。

キーワード 公認心理師、階層別達成目標、多職種連携

はじめに

公認心理師法が2017年9月に施行され、2018年9月には第1回の国家試験が実施され、2019年に「公認心理師」の有資格者が誕生した。診療報酬上も、「公認心理師」が登場している。国民の心の健康に寄与する「公認心理師」として、医療領域において有機的な多職種連携が実現することを願い、本論では心理職の業務を紹介し、心理職の活用法を提案したい。なお、本論で紹介する心理業務の枠組み、および心理職の成長過程は、国立病院機構心理療法士協議会（以下、当協議会）のワーキンググループで検討した成果物である。

国立病院機構における心理療法士

心理職の業務を示す前に、現在の心理療法士の状況について紹介したい。心理療法士が常勤配置されているのは、全国141の国立病院機構のうち53%にあたる75施設で、計188名である（2019年5月1日現在）。心理療法士は、精神科専門病院においては4名以上が常勤配置されており、精神科一般だけではなく、児童思春期、医療観察法、アルコール依存症などに関わっている。また、総合病院では、1名ないし2名の常勤配置が多いが、配置先は施設ごとに異なる。具体的には、がん、HIV、高齢者、神経内科、周産期医療、メンタルヘルスなど、関わる範囲は広がってきている。また、災害時には災害精神医療派遣チーム（DPAT）にも一員として加わり、活動も行ってきた。これまでの心理療法士の仕事は、

国立病院機構東尾張病院 社会復帰科 [†]心理療法士

著者連絡先：古村 健 国立病院機構東尾張病院 社会復帰科 〒463-0802 愛知県名古屋市守山区大森北2-1301

e-mail: furumuratakeshi@yahoo.co.jp

(2020年3月18日受付, 2020年11月13日受理)

Expectation and Pride of National Qualification

Takeshi Furumura, NHO Higashiowari National Hospital

(Received Mar. 18, 2020, Accepted Nov 13, 2020)

Key Words : certified public psychologist, career ladder, multi-professional cooperation